

# ICUラグビー部 略年表 (第17版 2007年1月)

Copyright ICURFC OBOG会

(文責：14期/70 渡辺美時雄)

## 1959年

- \*春、同好会として発足。Sophomore (6期/ID-62) が中心。グラウンドは本館裏にあった。
- \*初ゲームは山岳部を相手にしての敗戦であったが、その後、雪辱。山岳部員は頭を丸めた(当時の学生クラブは全国的に、山岳部とグリークラブが全盛の時代。山岳部はトレーニングにラグビーをとり入れていた)。

## 1960年

- \*5月、山岳部と3回目の練習ゲーム(勝)。



## 1961年

- \*初の夏合宿を、三鷹市大沢の電源寺にて。
- \*9月30日、武蔵野美術大学と初の対外ゲーム(9-0で勝)。ともにジャージー色は黒だったので、ICUが赤の腕章をつけた。レフリーはICU体育科の丹羽先生。

## 1962年

- \*4月、学生会クラブに昇格。秋には、D館に部室を確保した。
- \*春合宿を朝霞自衛隊にて。同じ合宿中の順天堂大学に指導を受け、以後しばらく交流が続く。
- \*この年6月から69年ころまで、成蹊大学の堀井藤浩氏(東京教育大学出身、フランカー)にコーチをお願いし、指導をいただく。

- \*夏合宿を仙台多賀城自衛隊にて。
- \*9月12日、山岳部とゲーム(もちろん勝つ)。山岳部との交流はこれが最後。
- \*ラグビー協会に登録し、第13回新制大学ラグビー大会(現・全国地区対抗大学ラグビー大会、以下公式戦と呼称)に加盟する。この年まで関東予選は全トーナメント方式。その緒戦は11月4日、後にプロレスラーとなるブロップ原を擁する対東洋大学であった(0-30で敗)。
- \*協会登録に際し、ユニフォームのジャージー配色を決定(濃紺・淡紺の段柄のもの。国連旗のブルーをもとにした)。
- \*12月7日、資金集めに、D館でラグビー映画会。

## 1963年

- \*初の女子マネジャー誕生(8期/ID-64関[土屋]静子)。
- \*夏合宿は秋田将軍野自衛隊にて。
- \*この年から公式戦の東京予選は、抽選分け4グループのリーグ戦+上位トーナメント方式となり、ICUはDグループで1勝4敗(×東洋大、×一橋大、○電通大、×明学大、×武蔵美大)。

## 1964年

- \*春合宿を千葉御宿にて。
- \*夏合宿を茨城県須賀川(公民館)にて。



- \*公式戦予選リーグは2勝2敗(×成城大、×武蔵大、○電通大、○大東文化大)。
- \*この年、20ゲームを行ない、公式戦後半から翌年5月まで12連勝。

## 1965年

- \*春合宿を千葉御宿にて。
- \*5月18日と6月8日の2回、コーチ堀井藤浩氏の紹介で成蹊大学チームに胸を借り、1勝1敗(21-0、3-20)と互角に戦う。
- \*夏合宿を那須黒磯(戸山高校寮)にて。コーチ堀井藤浩氏の紹介で、武蔵工業大学チームと初の合同合宿。以後、交流がつづく。
- \*秋、グラウンドが現在地に移る。
- \*公式戦予選リーグは、2勝2敗(×国士館大、×玉川学園大、○大東文化大、○農工大。とくに緒戦10月17日の対国士館大戦は健闘するも11-36で敗れたが、予選で同チームから得点したのはICUのみ。同チームは全国優勝)。

## 1966年

- \*夏合宿を茅野青柳(戸山高校寮)にて、武蔵工大と合同合宿。
- \*公式戦予選リーグは1勝3敗(×水産大、×武蔵大、×成城大、○電通大。成城大には0-72と大敗、同チームが全国優勝)。

## 1967年

- \*2月、能力検定試験導入反対闘争が始まり、夏まで学内閉鎖休学。本館内のロッカーにボール等をしまっていたため、春のチーム活動も途中で休部。
- \*7月22日、渋谷でOB約10名が集まり、現役支援のキャンプを行なう。OB会の萌芽。
- \*夏合宿を山中湖(丸一荘)にて。
- \*9月、現体育館とロッカー、シャワールームができる。
- \*公式戦予選リーグは1勝3敗(×学習院大、×東工大、×上智大、○武蔵工大)。

## 1968年

- \*春合宿を浜名湖(新居旅館)にて、武蔵工大と合同合宿。

\* 8月末、現グラウンド北西隅にバラックのスポーツクラブ用部室ができ、ラグビー部の看板を掲げる。  
\* 夏合宿を苗場スキー場（プリンスホテル・スキーヤーズベッド棟）にて、武蔵工大と合同合宿。  
\* 公式戦予選リーグは2勝3敗（×商船大、×上智大、×東工大、○立正大、○芝浦工大）。  
\* 12月1日、OBチームが初ゲーム（9-13日比谷高OB）。OBジャージーの配色（濃紺。黒の段柄）を決めて新調。

#### 1969年

\* 2月から三項目闘争および全国的な学園紛争のため休部状態に。  
\* 公式戦には登録したが、棄権。

#### 1970年

\* 紛争継続で6月末まで学園閉鎖。春合宿を4月中旬、大島（岡田町・民宿あざみ荘）にて。  
\* 6月末新学期授業再開。しかし部活動低迷のまま、新入部員を迎えられず。  
\* 公式戦には不参加。

#### 1971年

\* 部員が8人にまで減少。  
\* スチール製のゴールポストが建てられた。  
\* 公式戦には不参加。  
\* トライを3点から4点に等、ルール変更。  
\* 濃紺一色のジャージーをつくる。  
\* 秋、資金集めにD館で映画会。また、トレーナーをつかって販売。

#### 1972年

\* 久しぶりに大量の新入部員（20期/ID-76）を迎え、5月28日の対順天堂大戦で、3年ぶりに現役だけのメンバーを組む。  
\* 8月17日、OB水垣浩（11期/ID-67）、水難事故死。9月27日、オールICUと民放連で追悼ゲームを行なう。  
\* 夏合宿を初めて菅平（佐藤旅館）にて。  
\* 公式戦に3年ぶりに登録するも、体制整わず2戦2敗して途中棄権（×明星大、×理科大まで。他に東海大、農工大が予定されていた。東海大は全国優勝）。このころ、東京予選には30校以上が参加。

#### 1973年

\* 1・2年生中心の活動。

\* スポーツクラブ用部室、野球場東側のバラックに移転。  
\* 夏合宿を斑尾（民宿・山峰山荘）にて。  
\* 公式戦に登録するも、体制整わず棄権。

#### 1974年

\* 夏合宿を斑尾（民宿・山峰山荘）にて。  
\* 公式戦、6年ぶりに全戦復帰1勝2敗（×拓殖大、○芝浦工大、×武蔵大、×水産大。4-70だった拓殖大戦は、のちに拓殖大が協会指定の有料ゲーム参加チームとなったため、没収ゲームとなった）。

#### 1975年

\* 4月13日、お花見ラグビー大会（オールICU、民放連、電通、伊藤忠）。  
\* 7月11日、大々的なOB会を開催（青学会館にて35名参加）。継続していくことで合意。暫定のOB会長として、石塚雅彦（7期/ID-63）を選出。  
\* 夏合宿を斑尾（民宿・山峰山荘）にて。75~76年および78年は、OB堀江保範（14期/ID-70）が鬼コーチとして献身的に指導。  
\* 公式戦は1勝2敗1分（△創価大、×東経大、×外語大、○農工大）。

#### 1976年

\* 6月3日、OBチーム 敗-勝 アドリブクラブ。  
\* 7月9日、OB会（青学会館にて30名）。名簿やOB通信などの発行により、実質的なOB会諸活動を開始。  
\* 夏合宿を茅野青柳（三平ハウス）にて。  
\* 公式戦は、3勝2敗（×上智大、○造形大、×一橋大、○都立大、○明星大。緒戦の上智大には6-73で完敗したものの、最終戦の明星大には22-14で競り勝ち、6-20だった一橋大とともに三スクミ2位になった）。  
\* 秋、テーピングを導入。

#### 1977年

\* 1月、『部史』編纂趣意書を発送。  
\* 3月、スクラムマシン導入（実家が材木商を営む23期/ID-79黒沼清治の寄贈）。  
\* 春、一橋大に0-87と完敗。  
\* 7月8日、OB会（虎の門・升本）にて『創設18年小史』を刊行。この頃、暫定第2代会長を鈴木孝之（8期/ID-64）が務める。  
\* 夏合宿を山中湖（至誠荘）にて。  
\* 11月3日、オールICU-アドリブクラブ。

\* 公式戦は5戦全敗（×農工大、×外語大、×理科大、×玉川学園大、×帝京大。帝京大には3-95のワースト記録）。

#### 1978年

\* ウェールズ留学中のOB徳増浩司（18期/ID-74）が手記等を『ラグビーマガジン』誌3月号より1年間にわたり連載。  
\* この春卒業して横河電機に入社したOB村山直輝（22期/ID-78）が同社ラグビー部（関東社会人リーグ1部）に入部。以後、トップクラスラグビーの情報をさまざまに伝えてくれる。  
\* 春の戦績6勝1敗。  
\* 資金集めに、トレーナーをつかって販売。  
\* 7月14日、OB会（西新橋・紅梅飯店）。  
\* 夏合宿は6年ぶりに菅平（菅平プリンスホテル）にて。最終日に、OB鈴木勝利（11期/ID-67）の紹介で早大1・2年生チームと対戦（早大合宿所第三グラウンド）。35分ハーフでトライ数0-16だった。  
\* 公式戦は1勝3敗（○武蔵工大、×明星大、×一橋大、×武蔵大）。

#### 1979年

\* 4月8日、第3回お花見ラグビー大会（オールICU、民放連、電通、伊藤忠）。  
\* 7月13日、OB会（池尻大橋の春夏秋冬）  
\* 夏合宿を菅平（丸山荘）にて。  
\* 7月にウェールズより帰国のOB徳増浩司（18期/ID-74）が、夏以降、現役にアドバイス。  
\* 10月、OB徳増浩司（18期/ID-74）が『ラグビーマガジン』誌上に「スキルフル・ラグビー」の翻訳連載開始。



\*公式戦は3勝2敗（○都立大、○芝浦工大、×一橋大、○造形大、×立正大）。

\*11月11日、創設20周年、OB-現役のゲームと記念会を開催（三鷹・紫雲閣にて約100名参加）。OBエンブレムをつくる。

\*同日のゲームでは前座として、ともに開校もないICU高校と茗溪学園高校のラグビー部を招く（茗溪の部長は19期/ID-75OB加納正康）。両チームはともに初ゲーム（4-10で茗溪の勝）。

## 1980年

\*5月18日、現役の春シーズンの目標として、定期戦を企画し、創価大学チームに申し込んでいたが、その第1回をホームゲームで開催（6-20で負。その後1992年まで続くが、ICUの2勝10敗で中断）。



\*6月15日、OBチーム18-12自由学園。

\*7月11日、OB会（神田神保町おけい）

\*夏合宿を菅平（丸山荘）にて。

\*9月、OB徳増浩司（18期/ID-74）『スキルフル・ラグビー』を翻訳出版（ベースボールマガジン社）。

\*公式戦は2勝3敗（○芝浦工大、×商船大、×上智大、×武蔵大、○芸大）。

## 1981年

\*3月1日、OBチーム0-12ジャム。

\*5月17日、対創価大第2回定期戦4-10で負（ICUの2敗）。

\*7月1日、OB会（銀座ブリック）。

\*夏合宿を菅平（桑田館）にて。

\*公式戦は2勝3敗（×国学院大、×芝浦工大、×学芸大、○電通大、○国際商科大）。



\*ストレッチを導入。

## 1982年

\*5月16日、対創価大第3回定期戦25-0で初勝利（ICU1勝2敗）。

\*OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本ラグビー協会の広報委員になる。以後、協会スタッフとして活躍。

\*夏合宿を菅平（桑田館）にて。

\*OB正木範夫（23期/ID-79）、関東社会人一部リーグの横河電機のレギュラー（フッカー）として登録され、活躍。

\*公式戦は3勝1敗（○多摩美大、○国学院大、○都立大、×明学大。予選リーグ初突破をめざしてシード校の明学大戦に臨み、前半0-4と善戦するも、後半最後の5分間に3トライを奪われて及ばず）。

\*12月11日、OB忘年会（三鷹やまりき）。

## 1983年

\*2月、OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本ラグビー協会出版委員として機関誌上に「ポジショナル・スキル」（イングランド協会）の翻訳連載開始。

\*4月3日、OBチーム12-15ジャム。

\*4月24日、立教大へ遠征（8-20で負）

\*5月15日、対創価大第4回定期戦24-3で勝（ICU2勝2敗）。

\*6月10日、OB会（数寄屋橋ニュー東京ろん）。OBネクタイをつくる。

\*6月19日、OBチーム18-14オールフランチクラブ。

\*夏合宿を菅平（桑田館）にて。

\*10月2日、OBチーム18-16ソニー厚木。

\*公式戦は1勝3敗（○造形大、×立正大、×武蔵工大、×学芸大）。

## 1984年

\*OBチーム30-0オリエントリース、OBチーム14-12オールフランチクラブ。

\*4月22日、立教大が来征（0-40で負）

\*5月27日、対創価大第5回定期戦4-28で負（ICU2勝3敗）。

\*6月17日、OBチーム10-36電通。

\*夏合宿を菅平（桑田館）にて。

\*10月5日、初代部長・細木盛枝氏、92歳の大往生。

\*公式戦は4戦全敗（×国際商科大、×電通大、×創価大、×学芸大）。

\*11月4日と11日、創設25周年、OB-現役のゲームと記念会を開催（ICU食堂）。

## 1985年

\*1月27日、OBチーム勝-負オールフランチクラブ。

\*3月20日、オールICU4-40電通。

\*5月26日、対創価大第6回定期戦0-4で負（ICU2勝4敗）。

\*8月12日、現役Sophomore児玉洋介君（32期/ID-88）、日航機墜落事故で逝去。

\*夏合宿を菅平（エーデル山荘）にて。

\*9月、OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本ラグビー協会出版委員として機関誌上に「Rugby Coaching Manual」（オーストラリア協会）の翻訳連載開始。

\*公式戦予選グループの組み合わせが変わり、前年の各グループの順位ごとに実力的に再編された。しかし、どのグループからも上位変則トーナメント戦に進出はできる仕組み。ICUは前年4戦全敗の5位だったので、最下位の第5グループへ。以後、対戦校が固定化していく。

\*その公式戦は全勝をめざしたが、雨中の外語大戦で戦術的に失敗、4勝1敗の同率三スクミ1位になったものの、得失点差で桜美林大に上位トーナメント進出を譲り、2位に終わった（○多摩美大、○造形大、×外語大、○桜美林大、○芸大）。

\*秋、故・児玉洋介君のご遺族より現役へ多額の寄付をいただく。8ミリVTRとグリーンズのサブジャージーを購入。

\*12月、OB徳増浩司（18期/ID-74）が翻訳書『勝つためのラグビー』を出版（ベースボールマガジン社）。

## 1986年

\*2月2日、OBチーム10-10オールフランチクラブ。

\*5月18日、対創価大第7回定期戦3-8で負（ICU2勝

5敗)。

\* 7月18日、OB会(新宿文化ビルのチェリー)。

\* 夏合宿を菅平(エーデルホテル)にて。

\* 公式戦の関東1区(東京都)予選リーグ第5グループを全勝で突破。創設27年目にして同予選の上位トーナメント戦に初進出する(○造形大、○芸大、○外語大、○多摩美大、○杏林大。多摩美大には88-0とICUの最高得点)。

\* その上位トーナメント1回戦で、第1グループ1位の最有力校、国学院大学チームに13-14で惜敗! とくに後半

は10-7と勝っていただけに、前半のあのペナルティキックのチャンスを、回さずにゴールキックしていれば! という勝負だった(国学院大は2回戦で敗退)。



## 1987年

\* 5月17日、対創価大第8回定期戦6-24で負(ICU2勝6敗)。

\* 夏合宿を菅平(エーデルホテル)にて。

\* 公式戦予選リーグは第4グループに昇格するも1勝3敗(○武蔵美大、×桜美林大、×明星大、×水産大)。

## 1988年

\* 5月22日、対創価大第9回定期戦0-36で負(ICU2勝7敗)。

\* 夏合宿を菅平(エーデルホテル)にて。

\* 公式戦予選リーグ第4グループは2勝2敗(×水産大、○杏林大、×明星大、○武蔵美大。なお、この年、東京代表になったのは武蔵工大であった)。

## 1989年

\* 1月、OB徳増浩司(18期/ID-74)を監督、OB加納正康(19期/ID-75)を部長とする茗溪学園高校ラグビー部が、全国高校ラグビー大会で優勝。

\* 2月26日、OB小野寺幸也(10期/ID-66)、病没。

\* 5月28日、対創価大第10回定期戦0-16で負(ICU2勝8敗)。

\* 7月、有志で創設30周年記念会の準備を開始。有志でOB会会則の検討を続ける。

\* 夏合宿を菅平(エーデル山荘)にて。

\* 公式戦予選リーグ第4グループは1勝3敗(×北里大、×杏林大、×明星大、○武蔵美大)。

\* 10月27日、創設30周年記念会を盛大に開催(六本木・国際文化会館にて世界から約100名参加)。

\* あわせてOB会は会則を設け、記念会参加OBの承認をうけて組織化。ラグビー協会に、ICU RFC OB会としてチーム登録する。公式の初代会長に、石塚雅彦(7期/ID-63)を選出。



## 1990年

\* 2月13日、東京近辺在住のオールドOBを中心に、元コーチ堀井藤浩氏を囲む会、開催。あわせて、前年の全国高校ラグビー大会優勝監督のOB徳増浩司(18期/ID-74)も招聘し祝賀(原宿福祿寿飯店)。

\* 5月、ICUスポーツクラブハウス(部室)ができる。

\* 6月3日、対創価大第11回定期戦4-88で負(ICU2勝9敗)。

\* 7月6日、OB総会(有楽町・外国特派員協会)。

\* 夏合宿を菅平(エーデルホテル東館)にて。

\* 秋、現役員部員だけで紅白戦、初めて30名を越える。

\* 公式戦は予選リーグ第4グループで2勝1敗(×杏林大、○北里大、○武蔵美大。上位3チーム三スキミの同率1位だったが、得失点差で北里大がトーナメント戦に進出)。

## 1991年

\* 4月14日、東京商船大学チームと現役およびOBの交歓ゲームを行なう(現役9×14、OB18○12)。

\* 5月26日、対創価大第12回定期戦6-36で負(ICU2勝10敗)。

\* 7月12日、OB総会(有楽町の外国特派員協会)。

\* 夏、ゴールポストが建て替えられるも、寸足らず。

\* 夏合宿を菅平(エーデルホテル)にて。

\* 9月、現役チームは10年ぶりにOB徳増浩司(18期/ID-74)のコーチングを受ける。

\* 公式戦予選グループの組み合わせが変わり、各6チームの全4グループに再編される。ICUは第3グループで、1勝4敗(×外語大、×明星大、×桜美林大、×杏林大、○北里大)、第3グループに残留。

## 1992年

\* 2月16日、現役およびOBの交歓ゲームを予定していたが、1月30日に逝去された渡辺保男前学長の大学葬と重なり、自粛中止。

\* 4月、協会への登録等がコンピュータ化され、チームと選手登録者に固有IDが発行される(12月に通知あり。しかし、のちに94年度からシステムが変更され、選手の固有IDは廃止された)。

\* 5月24日、OB勝木元則(14期/ID-70)、病没。

\* 春の対創価大定期戦、実力差ゆえの辞退で途絶える(過去12戦してICU2勝10敗)。その一方で92年前半は7戦して負けなし、まとまりのよいチームづくりが進んだ(得点134、失点28)。

\* 6月、OB会役員会決定として、スクラムマシン基金の募集開始。

\* 7月8日、OB会総会(有楽町の外国特派員協会)。現役にスクラムマシンの仮寄贈式。8月夏練習開始日に納品された。役員交代、第2代会長に山下精一(11期/ID-67)を選出。

\* 92-93シーズンから、トライが4点から5点に等ルール大改正。OB徳増浩司(18期/ID-74)は日本協会ルールコミッティー委員として新ルール翻訳等に携わる。

\* 8月中旬、現役チーム夏合宿①で、OB徳増浩司(18期/ID-74)の指導を受ける。イワサキクラブ(茨城県の一般クラブ、徳増が顧問)で行なわれた伊勢丹チーム(東日本社会人リーグ)とイワサキクラブチームの新ルール講習合宿に参加させてもらったもの。

\* 8月末、夏合宿②を菅平(エーデルホテル)にて。

\* 8月末、OB徳増浩司(18期/ID-74)、『ラグビーマガジン』誌上に「7人制の技術」執筆連載(92年10月号より93年7月号まで9回)。

\* 公式戦予選リーグ第3グループで5戦し、3勝2敗の単独2位(○商船大、○武蔵美大、×国学院大、×杏林大、○明星大)。杏林大戦のとりこぼし(17-18)が残念。

\*12月、グラウンドに簡易照明設備がつく（が、授業用とのこと）。

#### 1993年

\*8月7日にICUでバーベキューOB総会を予定したが、異常天気による前日の大雨で中止。しかし当日、曇天となつて、OB有志と現役でバーベキューは挙行。

\*8月末、夏合宿を菅平（エーデルホテル）にて。

\*公式戦予選リーグ第3グループで3勝1敗（○商船大、○北里大、○杏林大、×東京農工大）。明星大が関東リーグ戦グループへ移動したため、全5チーム4試合に。第2グループから降格してきた農工大に0-7で惜敗、また決勝トーナメント進出を逃した。

\*大学選手権の出場校枠数が8チームから16チームへ拡大され、地区対抗大学大会参加校にも予選出場枠が設けられて、一本化された（翌年また変更）。

#### 1994年

\*OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本協会事務局員となる。

\*現役、黄色と緑色の正ジャージを作成。この登録図柄変更については、OB会には知らされていなかった。

\*この夏、全国的に観測史上最高の猛暑。8月末、夏合宿を菅平（エーデルホテル）にて。

\*大学選手権の改組に伴い、地区対抗大学大会の組み合わせも変更され、関東1区（東京）は3グループとなって、ICUは第2グループ（全7チーム）になった（関東大学リーグ戦グループへの掛持ち参加も不可となった）。

\*公式戦予選リーグ第2グループで3勝3敗（×商船大、×東京農工大、○杏林大、×芝浦工大、○電通大、○北里大）。

#### 1995年

第1回ICU RFC ラグビー祭（1995年5月28日）



\*5月28日、第1回ICURFCラグビー祭を開催。オールICU○-×オールフランスの試合後、オールフランスも招いて、ICU食堂で36周年とOB総会を兼ねたラグビー祭パーティ。総勢140名参加。記念品としてスパイク用の袋を制作。またOB各位から商品の提供をいただき、抽選景品として活用、パーティを盛り上げた。

\*5~6月、OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本代表チーム事務局として第3回ワールドカップ（南ア）に参加。日本代表は対NZ戦で17-145の歴史的な大敗を喫し、国内ラグビーの在り方の抜本的対策の必要性が改めて認識された。

\*夏合宿を菅平（スイスホテル）にて。

\*公式戦予選リーグ第2グループで4勝2敗の単独2位（○商船大、×杏林大、○東京外語大、○高千穂商大、×芝浦工大、○北里大）。

\*10月1日、国際ラグビーボードがアマチュア規定を削除し、オープン化（プロ化）容認の歴史的決定。具体策は各国協会に任せられる。日本協会では将来的には追認と発表。

\*社会人などトップラグビーのシーズン長期化と強化を図るため、1995年度シーズンから全国大会の日程が1月から2月に変更された。

#### 1996年

\*大学選手権決勝は1月15日に、社会人決勝は2月中旬に、そして日本選手権は1996年2月18日に（大雪のため1週間延期24日に）。地区対抗大学大会の日程は変わらず。

\*2月18日、恒例キックアウトゲームは大雪のため中止。

\*2月24日、現役中心のオールICU対日本ヒューレットパッカー若手チームの練習試合。

\*4月、日本協会が「アマチュア規定」を撤廃し、新たに「選手役員規定」を設定。社会人選手に限りCMなどによる金銭授受を認めるがプロ契約は認められない。大学ラグビーは従来どおり原則アマチュア。

\*4月末~6月、日・米・加・香港による「パシフィック・リム・チャンピオンシップ」始まる。

\*平成7年度協会登録チーム数とプレーヤー数が前年度比マイナスに転じる。若年層人口減の影響？

\*ルール改正——ラフプレーに対する「シン・ビン制（10分間の一時退出制）」導入、スクラムは終了するまで8人がバックしていなければならない、空中でのフェアキャッチを認める、ラインアウトでのジャンパー・サポートはボール投入後に腰から上のみ可とする等々、その他多義にわたる大幅な改正。

\*夏合宿を菅平（スイスホテル）にて。

\*公式戦予選リーグ第2グループで4勝2敗の3位（○高

千穂商大、○商船大、×東京外語大、○電気通信大、×北里大、○杏林大）。

#### 1997年

\*2月11日の日本選手権、東芝府中対明治大は69-8で東芝が圧勝。社会人1位対大学1位のこれまでの日本選手権の在り方が問われ、7月、今年度選手権（1998年1月末~2月）から社会人選手権3位までと大学選手権2位までの5チームによる変則トーナメント制と決まる。

\*2月16日、恒例キックアウトゲームは朝方までの大雨のため中止（2年連続の天候不順中止）。

\*3月、関東大学の組み合わせにも変革の機運高まり、まずは対抗戦グループ16校がA・Bの実質2部制となる。

\*夏練習を今年7月20日に開始。夏合宿は菅平（スイスホテル）にて。

\*公式戦予選リーグ第2グループで4勝2敗の4位。ICU、杏林、農工大が4勝2敗の三つどもえとなったが、得失点差で4位。（○商船大、×外語大、○社会事業大、○杏林大、×農工大、○電通大）。なお、10/5農工大戦は前半終了時にICUプレーヤーがレフリーに暴言をはいたとして即没収試合とされたが、後日、協会で撤回され、前半のみをもってゲーム成立とされた。

\*11月9日、現役納会とOB総会を同時開催、盛況（三鷹駅北口「魚民」）。次年度から新OB/OGにはOB会よりOBジャージを贈呈することを決定。またフィジーの農村在のOB土橋喜人（35期/ID-91）より中古ラグビー用品の寄贈要請があり、OB会として応えることになった。

#### 1998年

\*1月15日の大学選手権決勝は、関東学院大が明大を破って初優勝。大学ラグビーに新しい潮流。

\*2月1日の日本選手権決勝は東芝府中が2連覇。社会人選手権3位までと大学選手権2位までの5チームによる変則トーナメントの日本選手権。

\*2月22日、恒例キックアウトゲーム。

\*中古ラグビー用品をフィジーの農村チーム（VISOQU RFC）へ寄贈するプロジェクトは、茗溪学園などの協力も得て、ダンボール大箱4個を送送、4月10日付で公式の礼状が届いた。

\*夏練習を7月31日に開始。夏合宿は菅平（スイスホテル）にて。

\*8月、現役、インターネット・ホームページを開設。

\*OB会より現役へ正ジャージ（黄色と緑色）新調支援。

\*公式戦予選リーグ第2グループで4勝2敗の3位（○商

船大、×農工大、○社会事業大、○杏林大、×高千穂商大、○電通大。

#### 1999年

\* 1月6日、若いOB福重聡君（38期/ID-94）が心不全で急逝。4年間フッカーとして活躍、OB戦にも必ず顔をだす熱心なOBだったので…合掌。後日、ご遺族より現役チームへタックルスーツの寄贈をいただく。

\* 1月15日の大学選手権決勝は、関東学院大が2連覇。

\* 2月21日、恒例キックアウトゲーム。

\* 2月28日の日本選手権決勝は東芝府中が3連覇。社会人選手権と大学選手権の各4位までの8チームによるトーナメント日本選手権になる。

\* 5～6月のパシフィックリム選手権エブソンカップでジャパンが初優勝。香港が退会し、フィジー、サモア、トンガが加わって、北半球欧州の6カ国対抗戦と同レベルの国際大会に位置付けられる。

\* 夏練習を7月30日に開始。夏合宿は菅平（スイスホテル）にて。

\* 8月18日、OB会有志でインターネット・メーリングリスト（ML）を開設。現役にサブジャージ（伝統の青段柄）を寄贈。後に、不用となった現役サブジャージをフィジー（VISOQU RFC）へ寄贈（2回目）。

\* 公式戦予選リーグ第2グループ（○高千穂商大、○商船大、○電通大、○杏林大、×芝工大、×東邦大）。失点の少ない4連勝で迎えた芝工大戦、3-7で惜敗。そのショックで最終戦もとりにこぼしたのは残念。

\* 10月、ウェールズで第4回ワールドカップ。豪州が2度目のチャンピオンに。ジャパンは全敗。

\* この年はICU創立50周年、ICURFC創部40周年だったが、記念会は開催に至らなかった。代わりに、現役納会にOB会より飲食代を寄付。

#### 2000年

\* 1月6日、第50回全国地区対抗大学大会決勝は、武蔵工業大学（関東1区代表）が3年ぶり3度目の優勝。

\* 1月15日の第36回大学選手権決勝は、創部100年の慶応大が14年ぶり3度目の優勝。3連覇をめざす関東学院大に逆転勝ちした。

\* 2月20日、恒例キックアウトゲーム。

\* 5～6月のパシフィックリム選手権、ジャパン新チームは1勝のみ。

\* 春学期途中で主将交代。4年生は就職活動に専念するためとのこと（実質的に4年引退）。

\* 3年生新主将・柴崎のもと、秋にむけて7月早々から夏練習を開始。夏合宿は菅平（スイスホテル）にて。

\* 現役からのOBOG連絡がネット上のMLへの告知投稿に変更され、ハガキ連絡が途絶える。

\* 公式戦予選リーグ第2グループを全勝で突破。○東京商船大（51-0）、○杏林大（43-0）、○高千穂商大（29-0）、○北里大（不戦勝）、○東邦大（17-5）、○東京電機大（1トライ差）。1986年第5グループからの進出以来の快進撃。11月12日プレーオフ1回戦では農工大（第1グループ3位）に0-64で敗れた。しかし、初の第1グループ昇格が決まり、来シーズンは武蔵工大の胸をかりる。

\* 現役の快挙にOBOG会MLは大いに盛り上がる。久しく開かれていないOBOG総会と現役の快挙を祝う会の準備が始まる（→2001/2/24 Reunion）。

\* 秋、ジャパンのフランス・アイルランド遠征は大敗に終わり、平尾監督が辞任（その後、宿沢強化委員長・向井監督体制となる）。

#### 2001年

\* 1月6日、第51回全国地区対抗大学大会決勝は、武蔵工業大学（関東1区代表）が2年連続4度目の優勝。

\* 日本ラグビー協会がファン層拡大のため「JRFUメンバーズクラブ」を開設。また、一部選手とのプロ契約を開始。

\* 2月24日、ICUにてICURFC Reunionを大々的に開催。創部42年と現役の昨シーズンの快挙を祝し、今後の発展を期す。OBOG会総会にて役員も新体制に（会長：石塚雅彦7期63、事務局長：粉川直樹20期76、総務担当：柿木英人28期84、財務担当：長島豊司24期80、連絡・広報担当：小澤健三17期73、現役支援等企画担当：中村慎司26期82、OBチームキャプテン：田澤秀信42期98）。なお、OB会をOBOG会と呼称することに。

\* 夏練習は7月早々開始。夏合宿は菅平（23～29日、スイスホテル）にて。

\* 公式戦予選リーグ、初めての第1グループでの戦いは、1勝5敗に終わった（19○12芝工大、17×18外語大、5×21学芸大、不戦敗×武工大、5×21水産大、3×19農工大）。対学芸大戦で主将・山野以下が負傷。10/7の対武工大戦をキャンセルせざるを得なかった。対武工大戦は台風のため武工大Gが使えなくなり、ICUで行うことになっていただけに残念。なお、今季から桜美林大が関東大学リーグ戦グループ6部へ移動した。

#### 2002年

\* 1月6日、第52回全国地区対抗大学大会決勝は、愛知学

院大学（東海北陸代表、東海学生Aリーグ2位）が3年ぶり6回目出場で初優勝（19-13武工大）。

\* 年初、現役は今シーズンの目標を「関東1区代表として全国地区対抗大会に出場する」と高らかに掲げた。

\* 1月18日、ICURFCOBOG会総会（グラドアーケ半蔵門）。現役スタッフ4名を含む32名出席。現役支援の拡大とOBOG会会則の変更を、今後検討することに。

\* 5月18日、早大出身の元ジャパンで現プロコーチの石塚武生氏の指導を受ける（OB服部惣一41期97の紹介）。

\* 夏練習7月11日開始。夏合宿は菅平（19～24日、ホテル朝日）にて。

\* アジアで初のサッカーW杯（日韓共催）。その直後に開かれた2003ラグビーW杯（豪州）アジア代表決定戦でジャパンが代表を勝ち取る（4大会連続）。

\* 夏、協会が全国大会の在り方を改革。2003年度から国内最高峰の社会人大会「ジャパンラグビートップリーグ」を設けるほか、日本一を決める大会として「ジャパンカップ」を新設。地区対抗や大学同好会クラブにも参加枠を設ける。

\* 公式戦予選リーグ、第2グループで全勝（不戦勝○北里大、○東邦大、○杏林大、○商船大、○電通大、○高千穂大）。その勢いを駆って関東1区トーナメント1回戦では28○24芝工大（1のグループ3位）と破り、準決勝で惜しくも0×3農工大（1のグループ2位）だった。関東1区優勝は武工大（60-13農工大で8年連続13回目）。

#### 2003年

\* 1月6日、第53回全国地区対抗大学大会決勝は、武蔵工業大学（関東1区代表）が2年ぶり5回目の優勝。

\* 年初、現役は今シーズンの活動を「個々が輝けるチーム」と銘打ち、目標を昨年に引き続いて「関東1区代表として全国地区対抗大学大会に出場する」と掲げた。

\* 2月23日、現役/OB戦と、ICURFCOBOG会総会（ICU食堂）、現役全員を招待。

\* 3月24日、昨年が続いて、早大出身のプロコーチ石塚武生氏の指導を受ける（OBOG会支援）。7月26日にも。

\* 3月29日、東京外語大との合同チームで、対抗戦グループBの上智大と対戦（トライ数で2×12）。

\* 6月、「乾坤一擲」Tシャツをつくり学内で販売。

\* 6月27日～7月2日、豪州合宿遠征（現役有志）。

\* 夏練習7月11日開始。夏合宿は菅平（20～25日、エーデルホテル）にて。

\* 8月10日、東京外語大との現役・OB戦。

\* 8月30日、株式会社電通との合同練習（9/14にも。OB小牧渉16期72の紹介）。

\* 9月27日、新ユニフォーム出来（新素材、新デザイン）。OBOG会が支援。

\* 10～11月、2003ラグビーW杯（豪州）。

\* 9月7日、公式戦予選リーグ、1のグループでの2回目のシーズンは、念願の対武工大戦で幕を開けた（0×72）。圧倒されるも手応えはつかむ。以後、○学芸大、○水産大、○電機大、○農工大（不戦勝）と勝ち進むが、最終戦の対芝浦工大戦にて11×12。しかし昇格即3位につけて、2年連続関東1区トーナメントに進出の快挙。その1回戦では46○0杏林大（2のグループ1位）と問題にせず、準決勝で再び芝工大と対戦。アウェイでの接戦は惜しくも24×29に終わった。関東1区優勝は武工大（64-19芝工大で9年連続14回目）。

## 2004年

\* 全国地区対抗大学大会は今54回では出場12チーム全4日間に拡張され（東海北陸と九州が各2、同好会代表、医歯薬系代表の4増）、優勝校には新設ジャパンカップへの出場権が与えられた。この記念すべき第54回大会は福岡大（九州1区）が25年ぶり5回目の優勝。本命の武蔵工大は初戦の2回戦で九州大（九州2区）に1点差で敗れた。  
\* 2月13日、OBOG総会（代々木上原「炭火串焼ふく」）。  
\* 2月22日、現役/OB戦。  
\* 3月、現役ホームページに本略年表（PDF版）を公開。  
\* 4月、OBOG会支援でハンドダミー3体とタックルダミー1体を購入。  
\* 4月17日、対順天堂大戦（敗）。  
\* 5月15日、協会役員でプロコーチの花岡伸明氏の指導を受ける（残念ながらこの1回きり）。OBも多数参観。  
\* 6月、OBOG会支援にてデジタルビデオカメラを購入。また、エナメルバッグを作成。  
\* 6月13日、現役/OB戦、アラムナイハウスにてアフターマッチファンクション。  
\* 夏練習7月10日開始。夏合宿は菅平（18～23日、エーデルホテル）にて。  
\* 9月12日、公式戦予選リーグ、1のグループでの3回目のシーズンは、昨年に続き対武工大戦で幕を開けた（0×83）。以後、○学芸大、×農工大、○杏林大で迎えた勝負所、東京商船大と東京水産大が合併してできた対東京海洋大をホームに迎えて0×22の完敗、この時点で4位以下が確定した。最終戦の対芝浦工大戦にも8×69と押し切られ、2勝4敗の5位で予選リーグ戦を終えた。関東1区優勝は武工大で10年連続15回目の代表（今年の代表決定戦は、全国大会のシステム変更に伴い、地区対抗関東1区代表と関

東学生クラブ代表との決定戦となった。武工大94-14慶大BYB）。

\* 9月25日と12月5日、OB有志が辰巳の森海浜公園ラグビー場で練習。11月27日、電通大OB主催、早大理工OBとのOB3チーム交流戦。

## 2005年

\* 全国地区対抗大学大会は今55回でまたまた出場8チーム全3日間の旧来のシステムに戻され、優勝校のジャパンカップへの出場権もなくなった（ジャパンカップもシステム変更）。武蔵工大が本命の愛知工大（東海北陸）を1点差で破り、2年ぶり6回目の優勝。  
\* 2月20日、現役対OB戦、アラムナイハウスでアフターマッチファンクション（AMF）。その際、22期78村山氏の発案でグラウンド環境改善（芝化あるいは人工芝化）を学校側（体育科）に提起。以後検討を重ね、6/18に試験的実施。  
\* 3月4日、OBOG総会（於：南青山「川奈の台所ひだまり」）。  
\* 3月末、現役クラブ顧問の山本美実部長退任（1979年以来）、西田一郎部長（副学長・OB）就任。  
\* 4月15日、草創期OBOG中心に「堀井先生（元コーチ）を囲む会」（於：神保町「寧波料理店」）。  
\* 6月、現役、シーズンスロウカー“Enjoy Rugby”のストラップとTシャツを製作・販売。  
\* 6月17日、OB・現役で南インゴールに芝張りの準備。  
\* 同18日、現役対OB戦、そのあと芝張り作業、食堂にてAMF。  
\* 7月9日、現役夏練習開始。  
\* 8月20～25日、現役夏合宿（菅平、ホテルやまびこ）。練習試合3勝2敗。  
\* 9月18日、公式戦予選リーグ、1のグループでの4回目のシーズンは、対学芸大戦で幕を開けた（17×24）。以後、×北里大と痛い連敗、○農工大には勝ったものの、勝負所の対東京海洋大をホームに迎えて7×38の完敗、この時点でプレーオフ進出は望み薄となった。そして対芝浦工大・対武蔵工大戦とも、先制トライをあげたものの後半に押し切られ、1勝5敗の6位で予選リーグ戦を終えた。関東1区優勝は武工大で11年連続16回目の代表。なお、予選リーグでは海洋大が2位となり復活を印象づけた。  
\* 9月、グラウンド環境の実状視察のため、学長・副学長が試合を観戦。その後、来夏までに噴射式散水設備が整えられる見通しとなった。  
\* 10月1日、OBOG会補助でスクラムマシン補修なる（1992年導入、2002年パッド交換、そして今回）。  
\* 11月18日、ラグビー協会の18期74徳増氏（事務局長代理）

らによるW杯2011誘致、ならず。

\* 11月26日、昨年に続き電通大・早大理工とのOB3チーム交流戦（於：電通大）。

## 2006年

\* 第56回全国地区対抗大学大会は朝日大（東海北陸）が初出場初優勝。武蔵工大はこの朝日大に準決勝で惜敗した。  
\* 2月3日、OBOG総会（於：紀尾井町「ビストロアール」）。役員のうち財務会計に森繁織（28期/ID-84）が新任。  
\* 2月19日、対OB戦、そのあとアラムナイハウスでAMF。  
\* 春、ICUさくら基金にOBOG会として1口参加。  
\* 春、グラウンドのスプリンクラー設置に関する現役クラブ代表者の準備委員会が発足。  
\* 3月21日、対防衛大戦（於防大）。  
\* 4月8日HICU桜祭で、タイ在住農場アドバイザーのOB浅井重郎（10期/ID-66）が同窓会から表彰される。  
\* 4月、OB徳増浩司（18期/ID-74）、日本協会に新設の国際委員会の委員長に。  
\* 春シーズン練習試合、4/30対早大リスの会、5/21対早大うえいるずRFC、5/28対早大GWRC（レフリー下井真介氏）  
\* 5月4日、OB・現役合同練習。  
\* 6月、現役、ICUカラーのユニフォームをあしらったキーホルダーとリストバンドを製作・販売。  
\* 6月17日、対OB戦、食堂にてAMF。  
\* 7月8日、現役夏練習開始。  
\* 7月16日、対順天堂大医学部戦（於順大）。  
\* 8月18～23日、夏合宿（菅平、ホテルやまびこ）。練習試合1勝5敗（東京農工大、慶大医学部、大阪外語大、防衛大、電通大、金沢大）。  
\* 9月、グラウンド周囲に8基のスプリンクラー・レインガン設置。昨年計画され、夏の2カ月の工期を経て、シーズンインと共に稼働。プールの水を揚水して利用する。  
\* 9月3日、公式戦予選リーグ、1のグループでの5回目のシーズンは前年同様、対学芸大戦で幕を開けたが完敗のスタート（0×74）。以後、12×81海洋大、0×115武工大、7×82芝工大、7×34東邦大と白星のないまま、最終戦、負けたほうが2部降格となるアウェイでの対北里大戦に17○7で快勝、1勝5敗の6位で予選リーグ戦を終えた。関東1区優勝は武工大で、さらに今年は関東学生クラブ大会優勝の慶応大JSKSとの代表決定戦にも圧勝して、12年連続17回目の代表に（学生クラブとの決定戦は関東1区・2区で隔年ごと）。なお、予選リーグでは学芸大が2位となり復活を印象づけた。  
\* 11月3・4日HICU祭に、OG久納万里子（27期/ID-83）の

久納酒造製純米酒「ばか山」が60本発売され即完売（同窓会が発注）。

\*11月22日、現役2006年度シーズン納会。

~~2007年~~

---

\*第57回全国地区対抗大学大会は中京大（東海北陸）が32年ぶり2回目の優勝。武蔵工大は決勝で中京大に惨敗した。